

「平和を守り、真実をつらぬく民主教育の確立」にむけ、熱い議論を展開！

～第72次教育研究福岡県集会開催～

10月15日(土)・16日(日)、福岡県教協と教育総研は、第72次教育研究福岡県集会を福岡市内および、その近郊で開催した。15日の全体会は対面とオンラインの併用で、分科会は4分科会については15・16日、15分科会については16日に対面で行い、のべ591人の仲間が集まる中、138本のレポートをもとに活発な議論が展開された。

全体会では、挨拶の中で本村執行委員長が、70年前の教育の逆コース(戦前回帰・保守化)に抗う形で教研が始まったことに触れ、教育の自主編成の意義について再確認するよう求めた。

7月に参議院議員となった古賀ちかげさんは、ユニセフの報告で日本の子どもたちの「幸福度」が低いこと、特に「精神的幸福度」が先進国38か国中37位だったことを取り上げ、一刻も早く学校現場の実情を国会で訴えて、子どもも教職員も輝ける教育をめざしてがんばりたいとの決意を述べた。

また、共同研究者代表

表として、勝山吉章さん(福岡大学)からは、「国民の教育は国民自身がつくるもので、決して「お上」から与えられるものではない。「国民教育」を推進するために教研が果たす役割は非常に大きい」と参加者を激励した。

19の分科会では、各市教組・支部からのレポートをもとに、子どもたちのゆたかな学びを保障する授業実践の交流や、学校が抱えるさまざまな課題に対する取り組み、人権や平和を守る実践のあり方を模索するなど、活発で実りある討論が行われた。

参加者からは、「教育委員会や事務所が行う



第72次教育研究全国集会正会員

全国教研分科会	正会員	所属
1. 日本語教育	篠原 栄美	八女
2. 外国語教育・活動	吉村 千恵	遠賀中間
3. 社会科教育	千代島弘明	久留米
4. 数学教育	藤戸 徳子	浮羽三井
5. 理科教育	田中 雄基	福岡市
6. 美術教育	数山 礼恵	直方鞍手
7. 音楽教育	高口富美子	福岡市
8. 家庭科教育	北村 淳子	福岡市
9. 保健・体育	楨 千尋	福岡市
	永田 祥久	浮羽三井
10. 職業教育	江藤 文彦	粕屋
11. 諸活動と生活指導	神代香代子	筑紫
13. 人権教育	山中 麻衣	田川
14. インクルーシブ教育	富安ひとみ	朝倉
16. 両性の自立と平等をめざす教育	峯脇 美穂	北九州
18. 平和教育	舟井 康男	嘉飯山
21. カリキュラムづくりと評価	熊田 遼河	直方鞍手
22. 地域における教育改革とPT	川下 翔太	行橋京都
23. 教育条件整備の運動	戸渡 絵梨	筑紫
24. 総合学習と防災・減災教育	坂井寿一郎	久留米

「学校と社会を結ぶ 深刻な問題 ～子どもと教職員の日常から～」

【記念講演/桜井智恵子さん (関西学院大学)】

桜井さんは、学校や子どもたちが抱える様々な問題を、政治や経済の影響と結びつけながら課題を明らかにする研究者です。今回の講演でも、「そもそも安定した雇用が保障されるのならば全国学力調査のようなテストは必要ない」「新自由主義の波に飲まれてしまった教育の世界は、嫌でも経済の影響を深く受けている」「リベラリズムの名のもとに個人化・個別最適化が求められることになり、結果的に教育過剰、指導過剰に陥っている」「社会の問題が、すべて個人の問題=子どもの問題や能力に矮小化されている」などの課題を明らかにされました。

参加者からは「学校の課題の原因や背景を政治や経済と結び、社会運動につなげるとりくみは、まさに教職員組合の使命であると思った」「世の中の不平等を解消し、自由に生きるためには、社会構造のおかしさに私たち自身が気づかなければならないと感じた」などの声があがりました。

福岡県

教育新聞

福岡市東区馬出4丁目12番22号
福岡県教職員組合
TEL(092)631-4611
編集発行責任者/藤井 隆晴

福教組
ホームページ
http://ftu-net.jp



当面の主な予定

COVID-19の影響で、会議の延期等がある場合があります。

～11月～

- 3日(木) ジェンダー平等教育推進委員会 / 県教研専門委員会
- 5日(土) 支部長会 / 養護教員部常任委員会 / 女性部常任委員会 / 組織部長会
- 12日(土) 青年部常任委員会 / 部長会 / 母女実行委員会 / 県議会打合せ会 / 県養護教職員部交流学習会 / 臨探部常任委員会
- 13日(日) 県教協養護教員部委員会
- 22日(火) 事務職員部セクション交渉
- 25日(金) 女性部セクション交渉
- 26日(土) 教研改革検討委員会 / 養護教員部部長会 / 健康問題検討委員会 / 母女実行委員会 / 明日の教育を開くセミナー



10月24日の交渉の様子



要求書の手交 (右が筒井議長)

**安心して、やりがいを持って働ける
職場環境の整備を！
定数未配置が長時間労働に拍車をかける
実態を解消せよ！**

22年度賃金・労働条件改善確定交渉始まる！

9月21日に出された「福岡県の職員の給与等に関する報告及び勧告(人事委員会勧告)」を受け、22年度確定交渉は、10月24日(月)の地公労副知事交渉(入口交渉)よりスタートした。10月31日(月)には福教協(福教組・高教組)による教育総務部長交渉も行い、11月末の出口交渉に向けてのとりくみが本格的に始まった。

24日の交渉では、地公労議長・筒井県職労委員長による江口副知事への要求書手交から始まり、県当局からの提案並びに要求書への回答が行われた。

賃金については人事委員会勧告通り改定する(月例給・ボーナスともに引上げ)するとの提案だったが、来年度から始まる定年引

き上げによる定年延長者と現行の再任用者との間の賃金格差の問題が解消されおらず、今後の交渉で議論することになる。

「教職員の働き方改革取組指針(21年3月改定)」の目標達成が困難な県立学校に対して個別にヒアリン



意見発信する本村委員長

教育部門に関する回答は吉田教育長より行われ、

本村委員長の意見発信

定数未配置は、子どもたちの学習権に対する重大な侵害であり、長時間労働にさらに拍車をかけている。確かに人手不足は教育現場だけの問題ではないが、未配置を生まないためには、安心して、やりがいを持って働ける職場環境を整えるしかないのではないかと探し、取り合うだけではなく、福岡県の学校現場はこんなにも安心してやり

がいを持って働ける素晴らしい職場ですよ、と県教育委員会から社会に対して発信できるようにして欲しいし、まずは学校で学んでいる子どもたちが将来、学校の先生になりたいと思うような、教職員が生き生きと笑顔で働いている学校にしていきたいものである。

ただ、喫緊の解決策として、定数未配置を解消するには、現在教職にある人たちを辞めさせない、メンタル不調に陥らせないことが大事であると考えている。特に初任者に対して、誰が研修の担当者になるのかは非常に大きな課題で、担当者によつては初任者を追い込むような指導を行う元管理職が後を絶たない。初任者を護り育てる姿勢で任に当たるように地教委や管

【22年度確定交渉の流れ】

入口交渉

- ・副知事交渉(地公労) …10/24
- ・教育総務部長交渉①(福教協) …10/31
- ・団体交渉(福教協) …11/11
- ・教育総務部長交渉②(福教協) …11/16

出口交渉

- ・教育長交渉(福教協) …11/21
- ・副知事交渉(地公労) …11/22

吉田教育長コメント

理職に働きかけるよう強くお願いしたい。

定数未配置は早急に解決したい問題である。現時点では志望者を増やすために、大学への情宣活動や退職者への働きかけを中心にとりくんではいるが、やはり教職を魅力ある職にすることが重要であるとの認識に変わりはない。

病休・休職者を出さないように、メンタルヘルスやハラスメント相談窓口の周知はもちろん、気軽に相談できる職場の雰囲気づくりに努めたい。

速報 古賀ちかげ 国会デビュー♡♡

10月27日(木) 参議院文教科学委員会で初の国会質問を行い「学校の働き方改革」を強く訴えました。教職員不足、長時間労働の問題を、自身30年の教職経験をもとに文科省に対して厳しく追及し、初めてとは思えない堂々とした態度で現場の窮状を訴えました。県名こそ出しませんでしたが、これまで福教組の仲間たちとの交流で得た情報をありのままに国会の場で明らかにして、参院選の時に約束された「現場の声を国会に届けます!」を実行してくれました。ちかげさん、これからもわたしたちの代表として頑張ってください!